

生きたロイテリ菌サプリで手軽に、お口から悪玉菌を抑制

お口の機能性表示食品×プロバイオティクス「ロイテリ お口のサプリメント」を新発売。

発売日：2月5日（月） 発売エリア：全国

2018年01月25日

オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社

オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社（本社：東京都、代表取締役社長：野津 基弘）は、生きたロイテリ菌を使用した新商品として、機能性表示食品の「ロイテリ お口のサプリメント」を2月5日（月）に全国発売いたします。

政府は、21世紀の日本における超高齢社会の到来に備え、平成12年から国家プロジェクトとして「健康日本21」に注力してきました。そのなかで重点施策の一つに挙げられているのが、「歯の健康」です。

食物の咀嚼はもちろんのこと、食事や会話を楽しむなど豊かな人生を送るための基礎となる口腔内の健康。歯の喪失につながる歯周病や虫歯の一次予防が重要視されるとともに、近年では歯周病に全身の重大疾患（脳梗塞、心筋梗塞、早期低体重児出産、誤嚥性肺炎等）への影響も明らかになってきました。

口腔内の健康維持にあたり、医療先進国スウェーデンを中心に、いま注目されているのが「バクテリアセラピー」です。このたび当社が発売するサプリメントに含まれる「ロイテリ菌」は、世界90の国と地域でバクテリアセラピーに利用され、多くの症例を重ねるなかで信頼されてきた乳酸菌です。

ロイテリ菌は、「ロイテリン」という抗菌物質を作り出し、体内の悪玉菌を見極め活動を抑制するはたらきがあります。お口から始まる消化管に留まりやすく、定期的に摂取することで体内の菌バランスを整えていくことが報告されています。生きて腸まで届くプロバイオティクスであるのももちろんのこと、全身の入口である「口腔内の菌バランス」を整えることから、重要な役割を果たすことが期待されています。

「ロイテリ お口のサプリメント」は、歯を磨いた後でもお召し上がりいただけますので、1日1粒で生きたロイテリ菌を手軽に摂ることができます。1か月継続しやすい30粒入と、トライアル用の10粒入を展開いたします。

【オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社】

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループとして、2017年4月に設立。日本人の健康寿命を延ばし、豊かな人生を実現するため「医と食のバランスを変える」という10年ビジョンを掲げ、グループの新規事業をリードしてまいります。

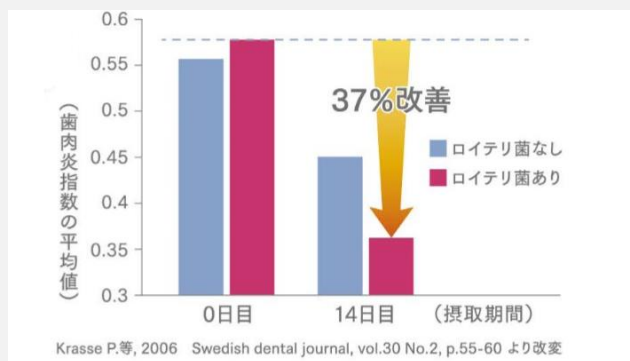
機能性表示食品

届出番号：C247

<届出表示>
本品にはロイテリ菌(*L.reuteri* DSM 17938株)が含まれます。口腔内フローラを良好にする*L.reuteri* DSM 17938株は歯ぐきを丈夫で健康に保つ機能が報告されています。



【機能性関与成分】ロイテリ菌 (*L.reuteri* DSM 17938株)で歯肉炎指数が 37% 改善



38名の健常な成人で歯肉に腫れをもつ被験者を2グループ（ロイテリ菌の有無）に分け、ロイテリ菌(*L.reuteri* DSM 17938株)入りのガムを14日間噛んでもらったところ、ロイテリ菌入りのガムを噛んだグループにおいて歯肉炎指数が37%改善した。

ロイテリ菌なしのグループにおいては日常的な歯磨きで19%のみの改善であり、ロイテリ菌の有無で18%の差が見られた。

※歯肉炎指数 (GIスコア: Gingival Index)
歯肉における腫れの広がり強さを同時に組み込んだ評価法。腫れの度合いを詳しく数値化でき、長期追跡調査や臨床試験の効果判定にも適用されている。

商品名	ロイテリ お口のサプリメント
品名	乳酸菌含有食品
容量	10粒入:8g (0.8g×10粒) 30粒入:24g (0.8g×30粒)
賞味期間	18ヶ月
発売時期	2018年2月5日（月）
販売地域	全国
販売場所	ドラッグストア、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等 自社通販サイトでも取扱 * 通販サイト (2月5日 午前10時よりOPEN予定) http://shop.ohayo-reuteri.com/lp2018_01

本件に関するお問い合わせ

オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社 本社 坂本 TEL：03-3222-7521

●企業HP (ロイテリ菌研究所) <http://ohayo-bio-reuteri.com/>

高齢化が急速に進むなかで、政府が「歯・口腔内の健康」に注力

超高齢社会、日本。日本の総人口は、1億2,693万人（平成28年時点）のうち65歳以上の高齢者人口は、3,459万人となり、総人口に占める割合（＝高齢化率）も27.3%と先進国のなかでもひとときわ高い比率です。高齢化に際し、なぜお口の健康が重要か、その背景を以下にご紹介します。

① 超高齢社会、日本

日本は現在すでに「超高齢社会」と呼ばれる状況ですが、日本の高齢化は世界でもトップを競う速度で進行していると言われています。

このような超高齢社会を人類は未だかつて経験したことなく、高齢化の進展により病気や介護の負担はますます増えていきます。健康寿命の延伸に向け、国を挙げて取り組んでいくことが政府の方針でも明記されました。国内における健康意識を高め、より健康な社会を目指すことは21世紀の日本における大きな課題です。

② 健康日本21とは

日本において健康寿命の延伸等を実現するため、国や地方自治体・企業・各種団体・国民が一体となって「一次予防」に力点を置きながら行う健康づくり運動（正式名称：21世紀における国民健康づくり運動）。

平成12年に第一次運動がスタート。平成14年には「健康増進法」も制定され、日本における健康づくり運動が一層重視され始めました。現在は第二次運動として改正後、一層具体的な取り組みが進んでいます。

第二次運動のゴールは「すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするため、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を実現」することです。

③ 政府の重点施策「歯の健康」

う蝕（虫歯）及び歯周病に代表される歯科疾患は、その発病、進行により欠損や障害が蓄積し、その結果として歯の喪失につながるため、食生活や社会生活、ひいては全身の健康や精神的幸福にも影響を与えます。

日本においては小児歯科領域における取組もあり、う蝕は減少してきました。一方で、歯肉炎も含めた歯周病の罹患率は30歳以上で80%以上と報告されています。日本における口腔衛生意識の低さは、他先進国と比較し低いともいわれています。

生涯にわたり自分の歯を20歯以上保つことを掲げた8020運動はもちろんのこと、政府として歯の喪失防止やう蝕の予防、成人期の歯周病予防等における目標値を設定し、セルフケア能力の向上や定期健診等を推し進めています。

④ 全身疾患にも影響する、歯周病の恐ろしさ

「歯周病は万病の元」といっても過言ではないほど、歯周病と全身疾患の関連は深いものです。

歯周病の原因菌が産生する物質は動脈硬化の原因となり、それによって心筋梗塞・脳梗塞のリスクも高まります。また、妊娠性歯周炎において産生された歯周病の原因菌は子宮まで届き早期低体重児出産を誘発します。

日本人の死因の3位である肺炎も、その多くは高齢者の「誤嚥性肺炎」と報告されています。誤嚥性肺炎は気管に入った唾液中の細菌などが肺に感染して起こるものですが、誤嚥を起こした際に歯周病原性細菌などのお口の中の細菌が肺炎を起こしやすくと考えられています。

このように、カラダの入口であるお口における炎症は、全身をめぐって私たちの命にかかわるリスクとなります。

出典

● **平成29年版高齢社会白書（全体版）**

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf_index.html

● **健康増進法（概要）**

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf>

● **健康日本21 HP**

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html

● **健康日本21における「歯の健康」の具体施策**

http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/b6.html#A61

● **歯周病と全身の健康（日本歯周病学会 2015）**

http://www.perio.jp/publication/upload_file/guideline_perio_body.pdf